

狼は本当に悪い動物なのか？

～赤ずきんちゃんから考える、アンコンシャス・バイアス～

4年 えまさん

1.研究のきっかけ

私は、夏休みに「ハットニャール博士の研究所」というアンコンシャス・バイアスについて学ぶイベントに参加しました。そこで、一つの物語でも違う登場人物の視点からみると、今までとは違った見方ができることを学びました。

これまで「悪者」だと思っていた存在にも、その立場から見ると別の理由や考えがあるのかもしれない。

この経験から、物語の中で当たり前のように決めつけている印象は本当に正しいのか疑問に思い「狼は本当に悪い動物なのか？」について調べることにしました。

2.研究の方法

実験1:まず、オオカミに対するイメージを調べるための4種類の動物(オオカミ・ブタ・ヤギ・トラ)の中から、「悪いイメージがある動物はどれか」というアンケートを行いました。その結果を割合で出し、円グラフにまとめました。

実験2:次に、一般的な「赤ずきんちゃん」の物語を読んでもらい、登場人物であるオオカミ、赤ずきん、おばあさん、猟師について「どのくらい悪いと思うか」を1点～10点で評価してもらいました。その平均値を小数第一位までの概数で出し、表とグラフに表しました。

実験3:私の考えたオオカミの立場からの言い分を読んでもらいました。もう一度同じように登場人物の評価をしていただき、同じように表とグラフにまとめました。また実験2と比べてどの位点数が変化したかもグラフにしました。

以下が私の考えたオオカミの言い分です。

人間達が森に家を建てて、木をどんどん切り倒したのさ。それで、仲間が住み家を奪われたり、狩人に殺されたりしたんだ。獲物も減って、ここ5日間ほとんど何も食べていなくてフラフラで死んでしまいそうだったんだ…。人間だって、牛や豚を食べるじゃないか！

3.結果

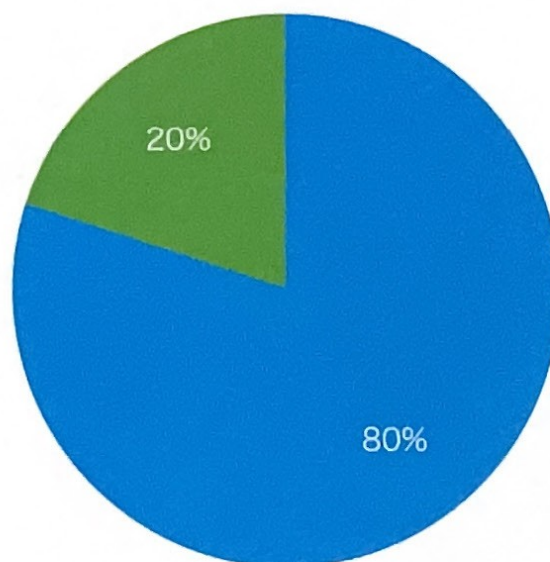
今回は、家族や親戚、学童の先生方や友人、サッカーの仲間など、30の方に意見を聞かせていただきました。

実験1

30人のうち、オオカミと答えた方が24人、トラが6人、ウサギとヤギは0人でした。

グラフ1.悪い印象のある動物の割合

● オオカミ ● トラ ● ウサギ ● ヤギ

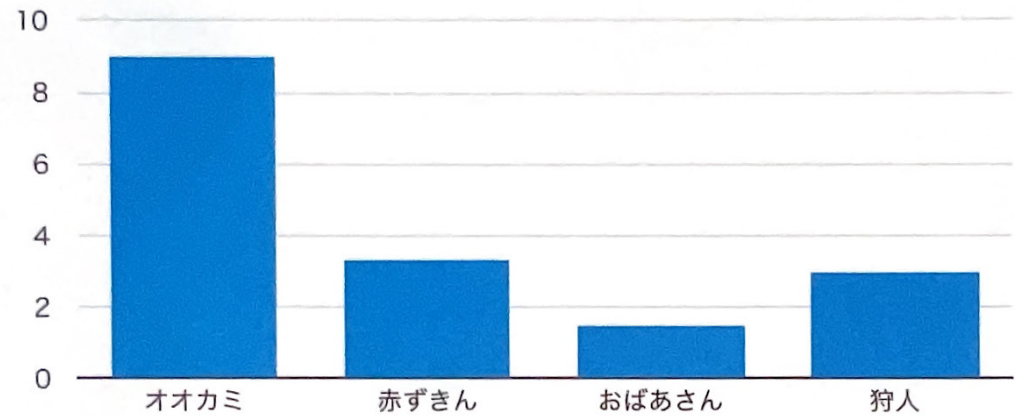


実験2

表1.登場人物の悪いと思う点数(オオカミの意見を聞く前)

	オオカミ	赤ずきん	おばあさん	狩人
平均点(点)	9.0	3.3	1.5	3.0

グラフ2.登場人物の悪いと思う点数(オオカミの意見を聞く前)

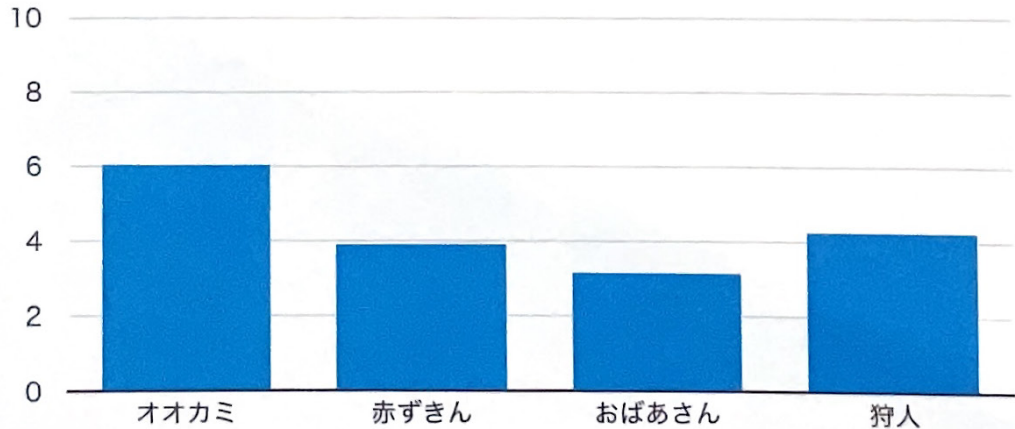


実験3

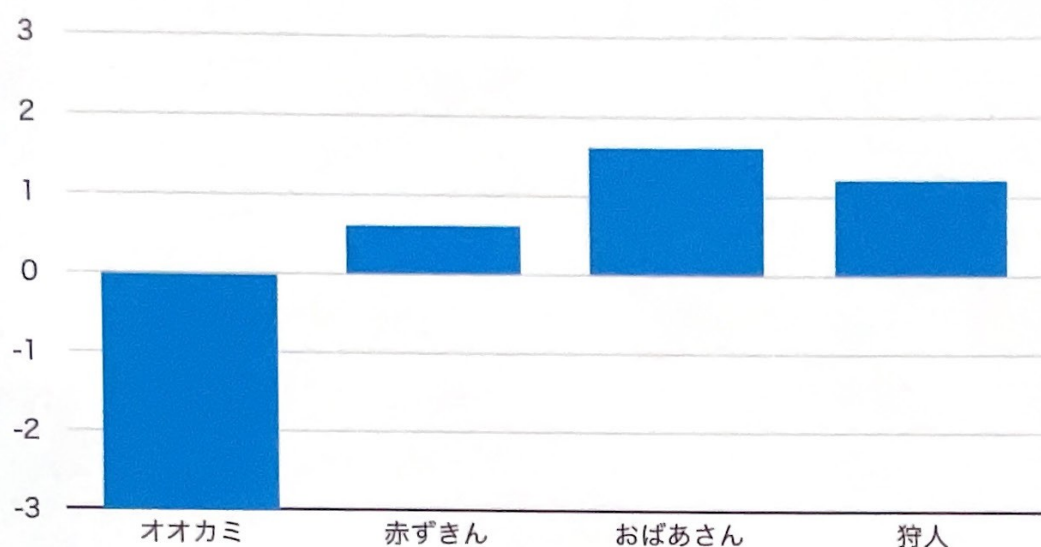
表2.登場人物の悪いと思う点数(オオカミの意見を聞いた後)

	オオカミ	赤ずきん	おばあさん	狩人
平均点(点)	6.0	3.9	3.1	4.2

グラフ3.登場人物の悪いと思う点数(オオカミの意見を聞いた後)



グラフ4.オオカミの意見を聞いた後の点数の変化



4.考察

実験1からはオオカミが80%と圧倒的に悪い印象があると考えられました。昔話では赤ずきんちゃんだけでなく、「オオカミと7匹の子やぎ」や「3匹の子ぶた」でも悪者になっているので、そのイメージが強いのだと考えました。また、トラと答えた数人は肉食動物であることから人を食べる印象があるのかなと思いました。ブタ、ヤギを選んだ人はいませんでした。

実験2.3からは通常の赤ずきんちゃんではオオカミが圧倒的に悪者であり、おばあさんはほぼ悪くなく、いいつけを守らずに寄り道した赤ずきんとオオカミを殺した狩人がやや悪い印象であることがわかりました。

そして、オオカミの言い分を聞く事で、オオカミの点数が3点も減り、印象が1番大きく変化した事がわかりました。赤ずきんの点数はほぼ変わらず、森に家を建てたおばあさん、オオカミの仲間を殺したり、言い分を聞かずに腹を切ったりした狩人がやや悪い方に変化していました。このようにオオカミだけでなく、物語全体の印象が変化した事がわかりました。

5.感想

今回の研究で、私たちの中には「オオカミは悪い」というアンコンシャスバイアスがある事、またオオカミの立場から赤ずきんちゃんの物語を考えるとそれぞれの登場人物に対する印象が変わることがわかりました。普段は「悪者」とされている人物もその立場からみると意見や言い分があることを知りました。

夏休みに戦争に関する多くのニュースを見ました。戦争でも、ある国にとっての「敵国の人」は1人ひとり誰かの親であり、子供であり、もしかして違う場面で知り合っていたら友達になれた人なのかも知れない、色々な思いを抱えていた1人の大切な人なのだと考えをめぐらせました。

また、日常生活でも私が間違った行動をした時に両親に叱られることが時々あります。それも親の立場で考えると「我が子に正しいことを教えた」という熱い気持ちがあることに気がつきました。友達と喧嘩した時などもどうしてそのような事を言われたのか、そのような行動をとらせてしまったのか、冷静に考えるようにしようと思いました。

この実験を通して、アンコンシャスバイアスを考えることの1つの素晴らしさは、あらかじめもっている印象を取り払って相手の立場に立って考える事ができる事なのだと思います。皆がこの「立場によるアンコンシャスバイアス」に気がつき考えることで、人々がよりお互いを理解し合い、明るい未来が広がると私は信じています。